

山の神に今年も感謝

山の神に感謝する伝統行事「山の口講」が9日、小浜市内各地で行われた。神社の氏子たちが水や作物といった山の恵みに感謝し、山での作業を安全に行えたことなどにも手を合わせ、集落の安泰を祈願。オコゼを供えるという特殊な風習があり、七五三や厄払いを兼ねたところもあり、同じ伝統でも各区で多様性がみられた。

(川上桂)

小浜 各地で「山の口講」



ヘッドライトの明かりでみそぎの言葉や祝詞を読み上げる小南さん=9日、小浜市堅海の久須夜神社

同市堅海では、山の神にオコゼを供えるのが昔からの習わし。山の神は不細工な女神といい、それ以上に醜いオコゼを供えることで機嫌が良くなるとの言い伝えがある。この日のために前々からオコゼを用意していくという。

星がまだ瞬く午前5時半すぎ、補宜代理の小南昭典さん(60)が、久須夜神社境内にある山神社を一人で参拝。オコゼや飯糰で作った餅などを準備し、火打ち石の火花で清め



祝い年の紅白餅と一緒に祭壇を設け、山の恵みに感謝する氏子ら=9日、小浜市甲ヶ崎の白鬚神社

会館の完成祝い 生徒が薬膳提供

若狭東高

小浜市の若狭東高創立10周年を記念し敷地内に完成した「ゆずりは会館」で8日、開館イベント「EASTIVAL (イースティバル)」が行われた。生徒たちが薬膳ランチや加工食品、野菜、草花などを販売した=写真。

同市甲ヶ崎では、氏子約50人が白鬚神社に集まった。山の口講のほか、七五三、喜寿や米寿といった祝い年、厄年のおはらい、新年を迎えるに当たり心身を清めるおはらいを兼ねており、祭壇の前にはお祝いの紅白餅がずらりと並ぶ。

初めて参加した森下敦子さんは、「シソやダイコン、芋(77)はニシンやダイコン、味付けされている。尾崎、府中の両ダイコンは白あえにして

伝承料理 食べて後世に

小浜12地区17品市民ら舌鼓

き、砂糖、しょうゆ、酢で味付けされている。尾崎、府中の両ダイコンは白あえにして



ツトオムレツ・サバトマトソ